



伝統と革新、 現代の江戸切子職人

清水秀高さん(47) 横浜教会

裸電球の明かりを頼りに、ガラスの角度を変えながら細かな模様を削り出す。その後、円形の研磨盤で表面を滑らかにし、光沢を与えていく。その緻密な作業は、まばたき厳禁の世界だ。

東京都江東区に工房を構える江戸切子職人の清水さん。中学二年生のとき、デパートで催された伝統工芸展で江戸切子と出会った。無地のガラスに煌びやかな文様が刻まれるさまに心を奪われ、高校卒業後すぐに弟子入り。十五年の修業期間を経て独立、二〇一〇年には高度な技術、知識を有する人に授けられる伝統工芸士の称号を得た。

「職人歴の半分は、磨き作業に費やしてきた」と、磨きを重視する清水さんのこだわりは、文様を一本ずつなぞって削る、昔ながらの「手磨き」だ。薬品に浸けて磨く、より簡単な「酸磨き」と比べて手間がかか

るが、一層滑らかな質感に仕上がるのだという。だがそれも、清水さんの確かな「腕」があったからこそ。そこに職人の職人たる価値がある。

「手磨きならではの良さを多くの人に実感してほしい」との思いから、二年前に工房併設の直営店「江戸切子専門店・煌粹」をオープン。自ら店頭での販売や体験教室などをはじめた。さらに現在は、SNSやインターネットを活用して江戸切子の普及に力を注いでいる。

「お客さまあつての江戸切子。伝統の上にあぐらをかくのではなく、人さまに喜ばれる新しい感覚の作品も手がけていきたい」

伝統を守りつつ、意欲的に新たな試み続ける清水さん。旧習にとらわれない、「いま」を感じさせる江戸切子を目指している。



江戸切子専門店 煌粹
〒135-0003 東京都江東区猿江 2-13-14
電話 03-6659-5117 ファクス 03-6659-5118
kiyohide.com



* 立正佼成会経営者サンガネットワーク「六花の会」
<https://rikkanokai.jp/community/>
4月1日から上記HPでもこの記事がご覧になれます。